

気管虚脱

小型犬に多くみられる病気で気管軟骨の支持力が低下することで気管が扁平化する病気です。気管軟骨基質内のコンドロイチン硫酸の欠乏や糖タンパクの減少により結合水の減少や軟骨の拡張が生じ、軟骨が虚弱化し扁平化することで発症します。本来ゴムホースのような丸い気管が扁平化するために呼吸がしづらくなる病気です。

好発犬種

トイ種やミニチュア種での発症が多く、特にヨークシャテリア、チワワ、マルチーズ、ポメラニアン、プードルで多く見られます。

症状

気管虚脱は、頸部気管あるいは胸部気管のどちらでも起こります。気管軟骨の扁平化の程度により症状の差はありますが、咳が一般的な症状です。咳払いのような空咳が特徴です。重症例では呼吸困難やチアノーゼが生じ、時には失神あるいは死亡してしまう場合もあります。

診断

一般的にはレントゲン検査を行います。ほとんどの症例はこの検査だけで診断できます。レントゲンは吸気時と呼気時の頸胸部を撮ります。これにより気管の虚脱が見られるのですが、通常、頸部気管は吸気時に胸部気管は呼気時に扁平化が認められます。気管支鏡検査を行う場合もあります。

治療

まず認識していただきたいのは、現在、完治させる方法はないということです。ですから、発見されたら進行させないことに専念して下さい。

症状を進行させる悪化因子は、肥満、呼吸器感染症、軟口蓋過長症などです。これはすべて呼吸に障害を与え、気管に負担が掛かり軟骨の虚弱化を助長するものです。当然ですが、運動制限は必要ですし、体温調節のパンティング(熱を逃がすために舌を出して過呼吸すること)も極力避けなければなりません。

内科療法

気管支拡張剤や鎮咳剤などを主として使用します。気管支炎の併発がある場合は消炎剤や抗生物質を併用します。ただ、気管を強化して扁平化を治す薬はないために、あくまでも緩和療法です。

外科療法

気管の扁平化が重度で、呼吸困難やチアノーゼを起こす症例のみに適応となります。というのは、残念ながら長期間良好に維持できる手術法が無いために、最終手段と考えてください。

頸部気管の虚脱の場合は、気管周囲にコイル状の物を巻き、気管と縫合します。これに

より扁平化した気管を元の形に牽引するのです。コイルの材質は金属、プラスチック、ファイバーなど色々と報告されていますが、牽引縫合した気管壁が破れてしまうことがあり長期間の維持となるとまだ問題が多くあります。もう一つは気管内にステントを入れ、中から拡張させる方法です。ステントとは、金属製のメッシュ構造をしている物ですが、閉じた状態で扁平化した部位まで気管支鏡で入れ、そこで拡張させる物です。これは頸部および胸部気管虚脱の両方で適応できます。人ではこの方法が一般的なのですが、動物ではサイズや材質の問題があり、扁平化の再発や気管壁の破裂が生じたりとまだまだ実験段階です。

現時点での最善策は早期に発見して進行させないように生活していくことになります。軽度とはいえ慢性的に出る咳は、一度検査されることをお勧めします。